



能登やさしいこめづくり情報

育苗編

育苗日数は1か月以内！

平成31年4月
能登米振興協議会
能登米生産者協議会
能登南部営農推進協議会
J A 能登わかば

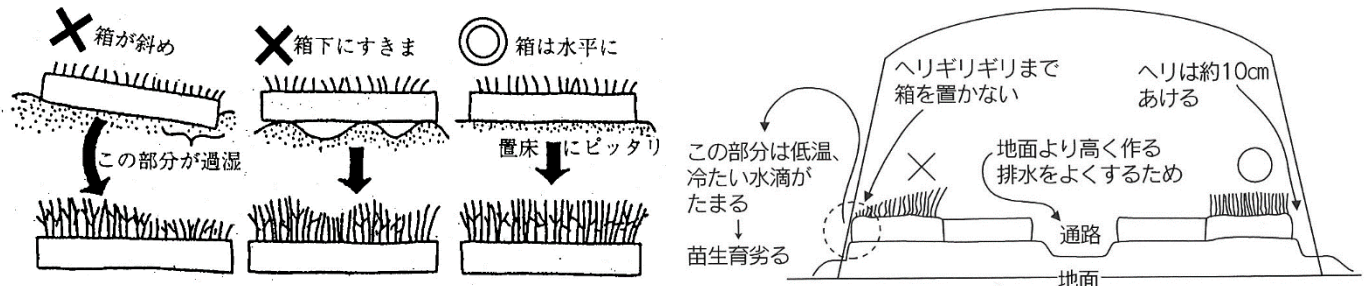
昔から「苗半作」といわれるように、苗づくりの善し悪しはその年の収量や品質に影響します。良い苗とは「がっちりした太い苗」です。決して「長い苗」ではありません。

「がっちりした太い苗」を育成するには、育苗期間を通じた細やかなハウス内の温度管理と水管理が必要になります。「5つの1か月対策」の「育苗日数は1か月以内」を目安に健苗育成に努めてください。

1 育苗ハウスの準備

◆苗箱の並べ方で1つで苗の揃いかわります。

- ・傾きや凸凹があると苗が不揃いになるため、予めハウス内の地面を平にならしておく。
- ・苗箱からの排水を妨げ、病害が発生しやすくなるため、地面にシートは原則敷かない。
- ・温暖な日中（できれば風の無い午前中）に苗箱をハウス内に隙間なく並べる。ハウスのへり（外縁）は低温で苗が不揃いなるので、10cm程度あけておく。
- ・ハウスに並べた当日は原則、かん水しない。過度に乾燥している場合のみ軽くかん水するが、この時期の水分過剰は病害の原因となる。
- ・被覆資材（シルバーポリトウ等）で覆い遮光し、資材の特徴に応じて管理する。

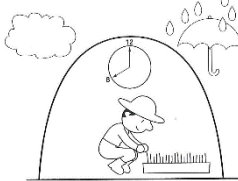


【苗箱の並べ方のポイント】

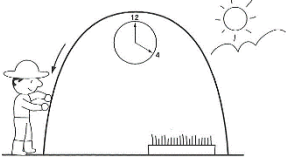
2 育苗管理について

◆育苗初期(緑化期:3~4日間)

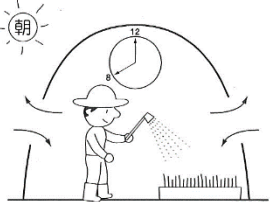
- ・第1葉の先端が見えて、葉が緑色となり、苗の高さが3cm程度となった時点で緑化とし、直ちに被覆資材を取り外す。
- ・被覆資材のしわやヨレ、被覆資材の上の水たまりは高温障害(葉焼け)の原因となる。

育苗初期(緑化期) (苗箱並べから3~4日間)	温度管理 (温度計は苗の高さ)	水管理
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 昼間: 20~25℃ 夜間: 15~20℃ </div> 3~4日被覆(しゃ光のため)  (朝7~8時) 土の乾燥を見て、必要なら少しかん水	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 昼間: 20~25℃ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・晴れた日は高温(25℃以上)にならないよう換気 ・被覆資材が風でめくれないように注意。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 夜間: 15~20℃ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・15℃を下回るときは十分に被覆し保温する ・霜注意報が出たときはストーブ等で加温 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ かん水は極力控える ✓ 床土が極端に乾かない限りかん水しない。 ・過湿状態が続くと苗箱の温度が上がらず生育が遅れ、カビの発生を招く。 ✓ 覆土の持ち上がりがある場合は軽くかん水する

◆育苗中期(硬化前期:8~10日間)

硬化前期 (被覆除去8~10日間)	温度管理	水管理
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 昼間 15~20℃ 夜間 10~15℃ </div>  <p>(夕方3~4時) ハウスを閉める</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 昼間: 15~20℃ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・晴れた日は朝から換気(夜間の低温が予想されるときは、午後早めに閉める。) ・換気する場合は、風が入らないよう風下側を開ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 夜間: 10~15℃ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・15℃以下に冷え込むときは被覆し保温に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ かん水は、床土の乾き具合を見て朝1回。 ✓ 夕方のかん水は控え、必要な場合は翌朝かん水する ✓ 雨や曇の日はかん水を控える。

◆育苗後期(硬化後期:田植前8~10日間)

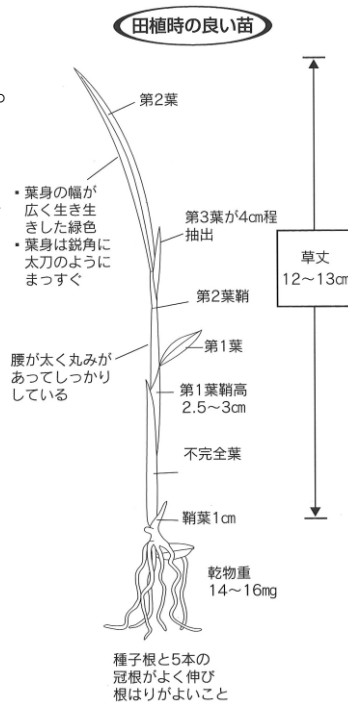
硬化後期 (田植え前8~10日間)	温度管理	水管理
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 外気温にならす </div>  <p>(朝7~8時) 今日は晴れそう→水やりと換気</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 昼間: 15~20℃ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・日中はハウスを換気し外気温にならす(順化)。温度が上がりすぎるときはハウスの腰部も開ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 夜間: 10~15℃ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・田植え4~5日前からは夜間も換気する。 ・ただし極端に冷え込む日は保温に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 毎朝たっぷり1回かん水する。 ✓ 苗箱の周辺部は乾きやすいので十分にかん水する。 ✓ 2回目のかん水が必要な場合は、午後3時までにすませる。

3 育苗期間の病害対策

ハウス内の温度管理の失敗により、ムレ苗の発生が多くみられます。起きないように、換気や温度管理に努める。

- ① 高温時には換気し、高温(35℃以上)・多湿条件にしない
- ② 緑化期以降は、急激な温度変化や多湿条件でムレ苗が発生しやすい25℃以上、夜間は5℃以下にならないよう換気や保温に努める。

症状	病原菌	原因等	対策等
白カビ 青カビ	リゾープス菌 トリコデルマ菌	・育苗初期によく見られ、高温・過湿条件で発生する。 ・換気を十分にを行い、土の表面が乾き始めるまでかん水しない。	ダコレート水和剤(2成分) 500倍液を500mL/箱かん注
赤カビ	フザリウム菌	・高温条件で発生しやすい。	タチガレエースM液剤(2成分)500倍液を500mL/箱かん注
ムレ苗	ピシウム菌	・急激な温度変化によって発生 ・pH5前後の通気性のある床土を使用 ・低温時は保温資材をかける。 ・夜間冷えた次の日が晴天の場合は、早めにハウスを開ける。	タチガレエースM液剤(2成分)500倍液を500mL/箱かん注後、寒冷紗等で遮光して蒸散を抑制する。



平成31年春の農作業安全確認運動(3~5月)の実施について

「公道での農機事故は安全確認と予防対策で防げます！」
 トラクターによる死亡事故の多くは、ハンドルやブレーキの操作を誤って公道から逸脱し用水路へ転落することや公道を走行中に後続車に追突されることが原因となっています。
 トラクターによる死亡事故対策の3つポイント

- ①シートベルトの着用と安全キャブ・フレームの装着
- ②ブレーキ連結の確認
- ③低速車マークや反射板の取り付け



「代かき後の濁水の河川への流出防止に努めましょう」

代かき後の濁水の流出は下流域の濁りの原因となります。ほ場からは僅かな流出でも、それらが集まると大きな河川の濁りにつながります。流出防止のために、代かき作業は浅水で行い、田植前に濁水を流す「強制落水」は行わないでください。